

PSAをはじめからていねいに ～基礎から臨床まで～

五十嵐 達哉

ベックマン・コールター株式会社

PSA 測定の歴史は、Tandem-R PSA (ベックマン・コールター社製) キットが1986年に世界初のPSA測定キットとしてFDA (米国食品医薬品局) 承認されたことから始まった。臨床使用としては、1994年Dr. CatalonaらがTandem-R PSAを用いて前立腺癌カットオフ値4.0ng/mLを発表した。このカットオフ値は、臨床において現在も揺らぐことのない前立腺癌の判断指標となっている。

2021年11月より、新たな前立腺癌マーカーとしてProstate Health Index (以下 *phi*) が保険適用となった。また、昨年改定された前立腺癌診療ガイドライン (2023年版) 診断アルゴリズムに *phi* が記載され、臨床的に意義のある癌の検出に有用であるとされている。現在、*phi* とMRIの比較など様々な研究が進み、更なる前立腺癌診断精度の向上が期待されている。

本セミナーでは、PSAを基礎から再確認するとともに、PSAからどのように前立腺癌の診断が行われていくのか、*phi* や最新の情報をふまえて解説していきたい。